

令和4年度第1回春日井市救急医療対策会議議事録

- 1 開催日時 令和5年3月29日(水) 午後2時から午後3時まで
- 2 開催場所 春日井市総合保健医療センター 4階会議室
- 3 出席者
 - 【会長】 春日井市医師会会長 前田 誠司
 - 【副会長】 春日井市歯科医師会会長 川口 剛
 - 【委員】 春日井市薬剤師会会長 林 きよみ
東海記念病院理事長 岡山 政由
名古屋徳洲会総合病院 循環器内科部長 青山 英和
春日井市休日・平日夜間急病診療所管理者 隈井 知之
春日井保健所所長 増井 恒夫
春日井市民病院院長 成瀬 友彦
春日井市消防本部副消防長 中西 理雄

 - 【事務局】 健康福祉部長兼課長 神戸 洋史
健康増進課長補佐 白石 大介
健康増進課長補佐 加藤 美子
健康増進課主査 川口 良子
健康増進課主事 林 正樹

 - 【その他関係機関】
春日井市医師会事務長 宮澤 勝弘
健康管理事業団主幹 高三 英治

 - 【傍聴者】 なし

4 議題

- (1) 救急医療体制について
- (2) 春日井市休日・平日夜間急病診療所の運営体制等について
- (3) その他

5 会議資料

資料1 春日井市のコロナ禍における救急医療体制について

資料2 春日井市休日・平日夜間急病診療所の運営体制等について

6 議事内容

議事に先立ち、委員の委嘱、委員等挨拶、会長及び副会長の選出、情報公開の説明を行った。

議事録の署名は、会長及びあらかじめ会長が指定する委員（川口委員）とすることで了承を得た。

議題(1) 救急医療体制について

【前田会長】

はじめに、議題(1)「救急医療体制について」、関係各機関等から順番に説明をお願いします。

【春日井市健康管理事業団 高三】

資料1(1)に基づき説明。

【春日井市健康増進課 事務局 白石】

資料1(2)に基づき説明。

【春日井市民病院 成瀬委員】

資料1(3)に基づき説明。

【春日井市消防本部 中西委員】

資料1(4)に基づき説明。

【春日井保健所 増井委員】

当日配布資料に基づき説明。

【前田会長】

議題(1)について関係機関等から説明がありましたが、ご意見やご質問はございますか。

(意見及び質疑等なし)

議題(2) 春日井市休日・平日夜間急病診療所の運営体制等について

【前田会長】

次に、議題(2)「春日井市休日・平日夜間急病診療所の運営体制等について」、事務局から説明をお願いします。

【事務局 神戸】

資料2に基づき説明。

【前田会長】

議題(2)について事務局から説明がありました。ご意見やご質問などはございますか。

(意見及び質疑等なし。今後は、春日井市健康管理事業団運営委員会で検討を行うことで合意)

議題(3) その他

【前田会長】

最後に、議題(3)「その他」について、全体を通じてご意見はございますか。

【川口委員】

病床を減らすような動きがある中で、救急医療の面から、どういった体制がとれるのか、病床がどれだけ足りないかなど、医療圏会議の中で議題として上がっているか知りたいのですが。

【成瀬委員】

地域医療構想の中で、この地区についても、病床は、超急性期、急性期が過剰で、回復期が足りないということになっており、コロナが始まる前までは急性期を減らす方向で動いていました。ただ近年、自然淘汰的に、市民病院も20床、近隣の小牧市、豊橋市、半田市などは50床ほど減っております。現在、具体的にどの病床をどうするとは決まっていますが、もし、5年後に新たな感染症が発生した場合、イタリアのように病床が足りなくなるのではないかと懸念しております。気管挿管やエクモなどで呼吸器管理をすることができる病床数は、デルタ波の時には少なく、増やそうとしても、名古屋徳洲会総合病院さんでも難しく、春日井市民病院でも2床、小牧市民病院でも1床が精一杯で、大学病院も増床できないとのことでした。こうした新興感染症に対する重症患者対応病床の確保をどうしていくかが、今後の課題だと思っています。

【岡山委員】

今後、新しい感染症が発生した場合は、病院を始め、それぞれの関係機関がどういう役割を持ってどう動くかをこの会議で決めていかななくてはいけないと思います。

【林委員】

コロナ禍において、軽症者については、多数の方が春日井市休日・平日夜間急病診療所を始めとした医療機関にかかり、症状が重いか軽いかにかかわらず、同じように時間をかけて診療しなくてはならなかったということがありました。調剤薬局で行っていた検査は、検査できる対象者に制限があったため、症状がある方を検査できませんでしたし、さらに、解熱剤の不足なども起こりました。今後は、ドラッグストアも含めて、軽症者の方の対応をどうするのかなど、三師会を始め各関係機関の方と相談して決めていければと思っていますので、よろしくお願いします。

【成瀬委員】

先ほど、岡山委員からお話がありましたように、この会議で、病床数等を始めとした感染症対策について話し合いを進めていくということであれば、コロナ禍で、ベッドの確保が難しかったことを踏まえて、超急性期、急性期対応の病院であれば、病床の3%または5%、春日井市民病院であれば、15床から25床を感染用ベッドとして確保することを義務づける、といったきまりを設けることも必要かと思います。

軽症者の受け入れについては、市内各医療機関に発熱外来としてご協力いただいていたところですが、市内でいうと30病院程であり、急性期患者を受け入れる春日井市民病院や名古屋徳洲会総合病院に発熱患者が集中することがないように、ある程度“ノルマ”的数字を示した指針などを定めることについて提案いたします。

【事務局 神戸】

国においても、次の感染症対策として、健康危機対処計画の策定、統括保健師の配置などを挙げております。市も計画等を議論していく中で、次の感染症に備えていくことは重要であると考えております。その中で、統括保健師の配置や、平時からの関係機関との連携強化などを進めていく必要がありますが、具体的な最近の動きについて、状況を教えてくださいいただけますか。

【増井委員】

健康危機管理関係会議は定期的には開催しておりますが、コロナ禍においては、書面で行ってまいりました。来年度は、是非対面で行いたいと考えています。まだ、具体的にお伝えすることはありませんが、南海トラフなどの災害にも備えて、具体的な内容を協議していきたいと思っています。

【前田会長】

では、最後に、私から一つお話ししたいと思います。

私は、コロナ禍において、医師会副会長として、春日井市休日・平日夜間急病診療管理者を務め、今年度6月から医師会長を務めております。コロナ禍において、対応に追われたわけですが、診療方法やワクチン、処方などいろいろなことが次々と決まってくる中で、会員も不安で、診療控えが起こり、患者さんが遠い病院にかかるしかないという状況にもなりました。

そのような時、各関係機関がどのように考え、今どのような対応を行っているか、困っていることは何かなど、情報や意見の交換ができる場がなく、非常に困りました。イレギュラーなことが次々と起こり、目の前のことをこなすことに精いっぱいなところに、各関係機関が集まり、新しく会議を立ち上げようということにはなかなかありません。当時のことを批判するものではないです。平時から、こうした会議を開いていれば、災害時など不測の事態が発生した時にも集まって議論しやすいと思います。日頃の問題解決にもなり、非常時の対応についても平時から議論しておくことで、備えることができると考えます。

このような事態を経験した者として、この会議は非常に重要だと思いますので、今日のこの会議がすたれることなく、毎年開催されること切に願います。

【事務局 神戸】

前田会長から、貴重なご意見をいただきましたように、この会議は春日井市の救急医療体制を担っていく重要なものでありますので、今後は、定期的を開催していきたいと思えます。当初はワクチン接種も不慣れなこともありましたが、三師会を始め、医療関係者の皆様のご協力と連携により、円滑に進めることができました。あらためて感謝を申し上げます。今後、日常を取り戻す中で、平時から非常時に備えた連携をさらに強めていけるように努めて参ります。本日は長時間ありがとうございました。

上記のとおり、令和4年度第1回春日井市救急医療対策会議の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及びあらかじめ指定する委員1名が署名する。

令和5年5月15日

会 長 前田 誠司

署名人 川口 剛